

## 令和7年度 発生予察注意報 第3号

★県内全域で、イネカメムシに加え、他の斑点米カメムシ類が多くなっていますので注意が必要です。

### 1 注意報の内容

- (1) 作物名：イネ
- (2) 病虫害名：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）
- (3) 対象地域：県内全域
- (4) 発生量：多い

### 2 注意報発表の根拠

- (1) 7月下旬の定期定点すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類（上記4種）が県内全域で平年より多くなっています（表1）。
- (2) 特に被害が懸念される大型のクモヘリカメムシ（図1）は、吾妻地域、東部地域で平年より多くなっています（図2）。
- (3) 関東甲信地方の向こう1か月の気象予報（8月21日気象庁発表）によると、今後、斑点米カメムシ類が増加しやすい高温・少雨傾向となる見込みです。

### 3 防除対策

- (1) 畦畔や休耕地の除草は、イネの出穂期の2週間前までとしてください。  
出穂しているイネ科雑草は、上記4種の斑点米カメムシ類の生息地、エサ場となっています。イネの出穂期頃に畦畔や休耕地等のイネ科雑草を除草すると、斑点米カメムシ類が、エサを求めて水田に侵入し、被害の発生につながります。
- (2) 斑点米カメムシ類が水田内に侵入した場合は、次の防除適期に薬剤（液体）散布による防除を行ってください（図3）。  
1回目：穂揃期・・・・・・・・・・・・（出穂始から6日～7日目頃）  
2回目：1回目の防除の7～10日後頃（出穂始から13～17日目頃）
- (3) 薬剤に粒剤等を用いる場合は、薬剤が田面水に溶解・拡散し、イネに根から吸収されるための期間を見込み、(2)の防除適期よりも3～4日前に散布してください。
- (4) イネカメムシと他の斑点米カメムシが同時に生息する水田では、イネカメムシの適期防除を実施することで、他の斑点米カメムシにも効果が期待できます。

### 4 防除上の留意点

- (1) 農薬の散布にあたっては使用基準を遵守し、他の作物等への飛散に十分注意するとともに、周囲の生産者、住民等への事前周知を徹底してください。
- (2) 特に斑点米カメムシ類の防除薬剤は、周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、養蜂農家への周知等、必要な被害軽減対策を講じてください。
- (3) 液剤を散布する際は、イネの株元までかかるようにしてください。
- (4) 防除に使用する農薬については、各農業事務所または、各JA、農薬販売店等にお問い合わせください。

**表1 7月下旬定期定点すくい取り調査結果**

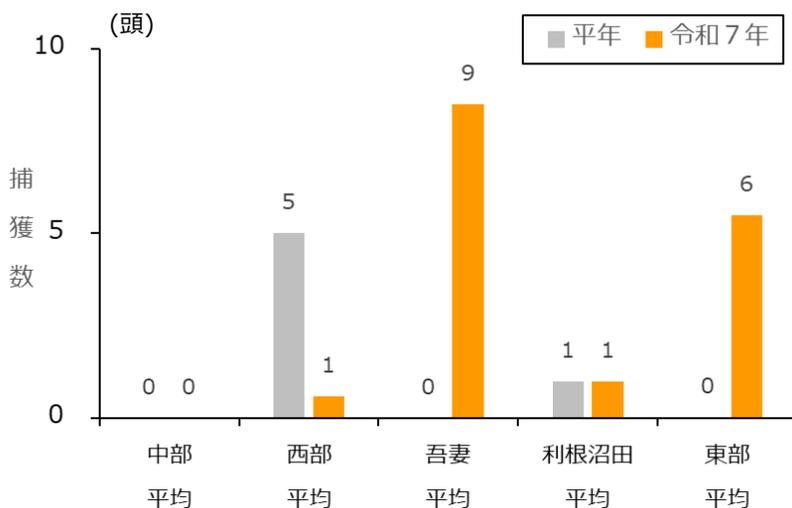
上段の実数は地域平均の捕獲数（頭）を、下段の（ ）内は平年値を1とした場合の倍率を示す

地域	クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	アカスジ カスミカメ
中部平均	0 (—)	4 (4.7)	132 (2.6)	23 (22.7)
西部平均	1 (0.1)	7 (5.2)	88 (3.8)	35 (9.1)
吾妻平均	9 (—)	11 (—)	21 (12.7)	6 (—)
利根沼田 平均	1 (1.0)	11 (11.6)	55 (12.9)	27 (28.4)
東部平均	6 (14.7)	13 (6.0)	38 (0.8)	12 (6.3)
県平均	3 (2.6)	9 (6.7)	65 (2.0)	19 (10.5)

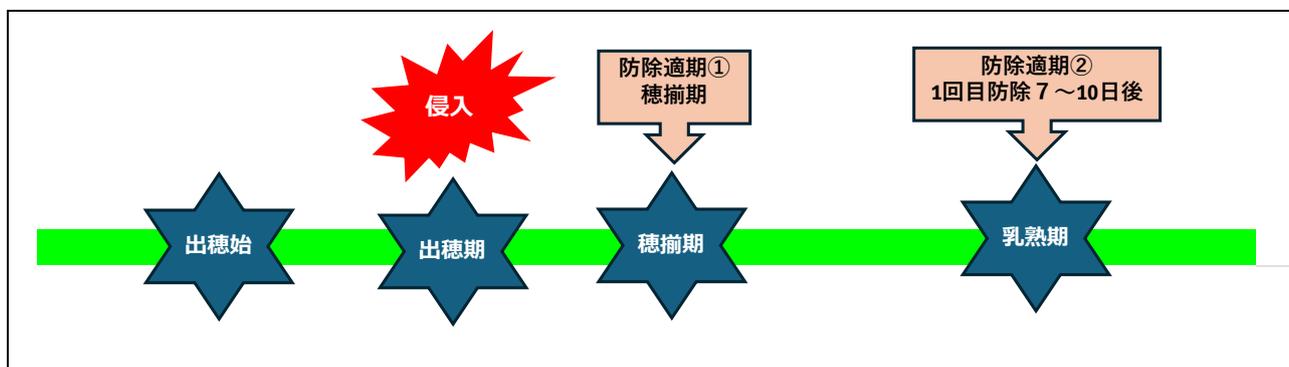
注 「（—）」は平年値が0のため倍率を表せないことを示す。



**図1 クモヘリカメムシ**  
成虫 体長 約16mm



**図2 地域別クモヘリカメムシの捕獲数 (7月下旬調査)**



**図3 斑点米カメムシ類 (イネカメムシを除く) の防除適期**